

専門医が診る

清水クリニック

石原浩院長



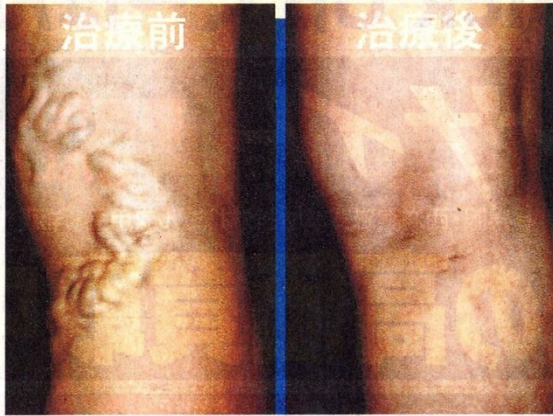
いしはら・ひろし 45年島根県邑南町生まれ。71年京都大医学部卒。京都大病院心臓血管外科、安佐市民病院心臓血管外科主任部長、清水クリニック副院長などを経て、10年7月から現職。年間約500例の下肢静脈瘤の手術を手掛ける。心臓血管外科専門医認定機構名誉専門医。

FILE 27

脚の静脈がこぶのように浮き出る下肢静脈瘤。30代以上の女性に多く見られ、脚のむくみや痛み、こむら返り、皮膚のたれなげを起すこともある。下肢静脈瘤専門外来の清水クリニック(広島市南区)の石原浩院長に治療法を聞いた。

下肢静脈瘤

一丁のような病気ですが、かつて進み、心臓に戻ります。脚の静脈内で血液の逆流を「弁」が機能しないため、血液がたまり、静脈が浮き出に起こります。心臓から動脈を通って脚に送られた血液は、本来、静脈内を体の上部に向



血液がたまって静脈が浮き上がった脚を。右はストリッピング手術と硬化療法を受けた後の脚

「レーザー」普及 治療に幅

あります。

レーザー治療が広がっているそうですね。

2011年1月に保険適用となり、患者が選べるようになりました。これは、患部の血管を熱で焼いてしまう方法です。まず、膝やふくらはぎの皮膚をメスで数センチ切開、または注射針で刺します。次に、細長いガラスファイバーを静脈に挿入。先端からレーザーを照射しながら少しずつ手を引き、静脈の内側を焼きま

す。静脈全体がつかれてふさがり、血液がたまるなくなり

ます。

レーザー治療のメリットは何ですか。

手術時の出血量が少なく、治療の痕も残りにくいことで

です。手術は局所麻酔を使って

30分前後。術後1時間ほど休

めは歩いて帰ることができ、

このほか、静脈内に接着剤

のようものを注射して血管

を小さく硬化療法や、静脈の

引っ張って静脈ごと抜き取り

ます。局所麻酔ででき、手術

時間もレーザー治療と同じく

高い効果があります。

治療技術が進み、どの手術も短

時間で済み、日帰りできるよう

になりました。体への負担が特

に軽いレーザー治療も保険適用にな

ったため、治療の幅は広がって

います。

ここがポイント

治療技術が進み、どの手術も短時間で済み、日帰りできるようになりました。体への負担が特に軽いレーザー治療も保険適用になったため、治療の幅は広がっています。

根元を縛って血液の逆流を防ぐ高位結紮術などがありま

一予防法は

長時間の立ちっ放しや座りっ放しはよくありません。重力の影響で脚に血液がたまり、弁が壊れやすくなります。実際、美容師や店頭の販売員、調理師たち立ち仕事の人に、若い患者も目立ちます。意識して歩き回るようにしましょう。歩くことで筋肉のポンプ作用が促され、血液が心臓に戻っていきやすくなります。脚の筋肉をもちたり、寝るときは脚を高くしたりするのも効果的です。

質問や相談募集

@chugoku-np.co.jpでも受け付けます。11日必着。掲載は匿名ですが住所、名前、性別、年齢、職業、連絡先を明記してください。

下肢静脈瘤について石原院長への質問や相談を募集します。〒730-8677中国新聞社文化部「専門医が診る」係まで。ファクス082(291)5828、メールkurashi